



プレスリリース  
2005年4月13日

## リバティ・アライアンス、位置情報サービスなど3種類のアイデンティティ・ベースのWebサービス向けインターフェース仕様を発表

ユーザーにプライバシー保護、パーソナリゼーション、セキュリティ面のメリットを提供

世界から150以上の企業・団体が参加するアイデンティティ管理と連携サービス技術の標準化団体リバティ・アライアンス・プロジェクト(Liberty Alliance Project)は本日、プレゼンス、コンタクト・ブック、位置情報サービスの3種類のWebサービスをサポートするインターフェース仕様を発表しました。これらの仕様は、リバティのアイデンティティ・ウェブ・サービス・フレームワーク(ID-WSF)上で展開可能で、企業とサービス・プロバイダーに新たなアプリケーション機能を提供すると共に、ユーザーにプライバシー保護、パーソナリゼーション、セキュリティ面のメリットを提供します。

リバティ・アライアンスのプレジデントで、IntelのPlatform Virtualization Labディレクターであるジョージ・グッドマン(George Goodman)は「Webサービスを成功させるにはアイデンティティが必須です。アイデンティティを確立し、セキュリティをしっかりとしなければ、企業は社外にまたがるWebサービスを安心して使うことができません。リバティのID-WSFを基本的な枠組みとして企業は安心して自社のアーキテクチャを連携ウェブ・サービス・モデルに拡張できるため、信頼を得たパートナー、カスタマー、サプライヤーは企業の境界を超えて重要なリソースと情報にアクセスすることができます。新しいサービス・インターフェース仕様により、ID-WSFは強力にセキュリティを確保しプライバシーを保護しながらよりカスタマイズされたサービスを提供する上で、ますます価値あるものとなります」と述べています。

### **プライバシー、セキュリティ、シームレスなインタラクションをサポートするリバティのサービス**

コンタクト・ブック、位置情報、プレゼンスは、ID-WSFなどの仕様を開発するリバティ・アライアンスの専門グループの一つであるサービス・グループが開発した最初のサービス・インターフェース仕様です。このグループが仕様を定めたインターフェースは、特定の産業、アプリケーション、ビジネス・モデルのニーズに対応するよう迅速に開発され、綿密に定義されています。

### ● **コンタクト・ブック・サービス・インターフェース**

ユーザーがプライベート用、ビジネス用の住所録をコンタクト・ブック・プロバイダーに関係なく管理、共有するための一般的な手段です。サービス・プロバイダーがユーザーの要請に応じて請求先や送付先の住所といった情報にアクセスしたり自動更新したりすることを可能にします。

### ● **位置情報サービス・インターフェース**

ユーザーの要請に応じて人物の位置を自動的に把握し、天気予報、ニュース、旅行、為替などの情報や、選択した場所への道案内などのサービスを提供する手段です。

### ● **プレゼンス・サービス・インターフェース**

相手が通信可能かどうかを知るために、オンラインなのかオフラインなのか、あるいは電話中なのか会議中のかなどの情報を、ユーザーがサービス・プロバイダーと共有する一般的な手段です。

以上の3種類のサービス・インターフェースは、個々に機能することも、シームレスに統合して機能することもできます。ID-WSFの最初のバージョン用に以前にリリースされたサービス・インターフェースであるIDパーソナル・プロフィールやIDエンプロイ・プロフィールと同様に、それぞれのサービスは、ユーザーによるWebサービスへのコントロールがプライバシーを尊重しつつ強化するように作られています。

例えば、映画が上映されている場所を知りたくて、ある消費者が携帯電話で位置情報サービスを利用したとします。サービス・プロバイダーはユーザーの位置を簡単に把握して情報を伝えます。そこでユーザーはコンタクト・ブック・サービスを利用して自分の場所を知らせるメッセージを友人20名に送ります。コンタクト・ブック・サービスはプレゼンス・サービスを呼び出して、そのユーザーの友人がどのような手段で連絡して欲しいかを把握します(携帯電話、PCなど)。ある人は携帯電話へ、またある人はPCへ連絡して欲しいと知らせるかもしれません。プレゼンス・サービスは指定された機器へメッセージを送ります。コンタクト・ブック・サービスはまた、ユーザーが一定の範囲内にいる友達との連絡を望む場合、位置情報サービスを呼び出すこともできます。

パーソナリゼーションの観点から、これらのサービスは、エンド・ユーザーにとって、提供される情報を直接操作し、コントロールできるというメリットがあります。プライバシーの観点からは、行き過ぎを抑えて均衡をとれるようになっています。例えば、位置情報サービスでは、ユーザー・フレンドリーなインターフェースとコントロールを提供するプライバシー・コントロール策を備えています。ユーザーとのやり取りを通じて、位置情報のプロバイダーはユーザーの位置を知らせる許可をすぐに求めることができます。こうした方法によりユーザーは極秘のデータが適切に保護されている安心感を得ることが出来ます。

ガートナー・リサーチのヴァイス・プレジデントであるレイ・ワグナー(Ray Wagner)は「Web サービス・アプリケーション・インターフェースの標準規格は、組織がより安全で機能的な Web サービスを展開するための重要なステップです。こうした仕様によって、サービス・プロバイダーはユーザーに安全な Web サービスの枠組みの中でアイデンティティ情報を管理するより多くの選択肢を提供することができます」と述べています。

3 種類のサービス・インターフェース仕様は、草案の形で次のサイトから入手できます。

<https://www.projectliberty.org/resources/specifications.php#box3>

リバティ・アライアンスは、他のすべての技術仕様と同様に、この仕様についても一般の方からの評価やご意見を求めています。追加情報は、アプリケーション利用事例から入手できます。

## リバティ ID-WSF について

リバティのアイデンティティ・ウェブ・サービス・フレームワーク (ID-WSF) は、Web サービスの発展をサポートします。Web サービスでは、認証、セキュリティ、サービス・ディスカバリー、サービス・ポリシーなど、多くの標準規格が必要です。リバティ ID-WSF はこうした機能を提供して、安全で、プライバシーを保護し、豊かで、相互運用性を持つ Web サービスの発展に寄与します。

## リバティ・アライアンス・プロジェクトについて

リバティ・アライアンス・プロジェクト([www.projectliberty.org](http://www.projectliberty.org)) は、世界中から 150 以上の企業・団体が参加している非営利・非政府の組織です。コンソーシアムの目的は、既存および新規のあらゆるネットワークデバイスをサポートする連携ネットワークアイデンティティのオープン・スタンダードを開発することです。連携アイデンティティは、企業、政府機関、従業員、および一般の消費者に今日のデジタル社会におけるアイデンティティ情報をコントロールするより便利で安全な方法を提供するとともに、Web ベースのサービスは言うまでもなく、電子商取引、個人データサービスの利用を促進する重要な要素です。メンバーシップはすべての営利団体および非営利団体に開かれています。

\*\*\*\*\*

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記へお願い致します

### ■ 株式会社 井之上パブリックリレーションズ

リバティ・アライアンス 広報担当 本田／リットウイン／鈴木

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-34 新宿御苑前アネックスビル6F

TEL : 03-5269-2301 / FAX : 03-5269-2305 E-mail : [liberty@inoue-pr.com](mailto:liberty@inoue-pr.com)